

札幌北高校のキャリア教育

藤女子中学校・高等学校副校長 黒田 信彦
(前北海道札幌北高等学校長)

1 はじめに

本校は1902年（明治35年）に北海道庁立札幌高等女学校として開校し、2012年（平成24年）に創立110周年記念式典を終え、これまで卒業生は4万3千人を超え、我が国や世界の有為な人材として幅広く活躍している道内屈指の伝統校であり進学校である。

生徒のほぼ全員が国公立大学への進学を希望しており、北大をはじめ全国各地の大学に進み、在学中は勉学はもとより学校行事や部活動にも積極的に取り組んでいる。北高訓として『寛容・進取・良識』を掲げ、この精神は多くの同窓生や師弟に脈々と継承され、温めあい育みあってきたものである。

本校は2002年（平成14年）に文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の研究指定を受け、2006年（平成18年）までの4年間にわたる研究を続け、その後、研究の成果を生かした様々な高大連携事業を中心としたキャリア教育に視点を当てた取組を行っている。最近では、複数の受験雑誌にも本校の取組が紹介され、中学生の進路指導に役立っている。

2 学校経営の基本

（1）学校教育目標

- ①相互敬愛の心と豊かな情操を養い、自由と正義を尊び、責任と規律を重んずる態度に育成に努める。
- ②進取の気風を培い、心身を錬磨し、国際社会の担い手としての人格形成に努める。
- ③真理を探り、高い知性と良識ある判断に基づく公民的教養の向上を図るとともに個性の伸長に努める。

（2）経営方針

- ①生徒一人一人の志望を大切にし、その実現への援助に努める。
- ②特別活動の充実に努め、21世紀を担うリーダーとしての社会的資質を高める。
- ③教師自らの資質の向上を目指すとともに、学校課題を明確にし、協力して課題解決に当たる。
- ④保護者との連携を深め、地域社会の信頼に応える学校を目指す。

以上の学校教育目標及び経営方針に基づき、教職員及び生徒に対して期待することを学校経営基本理念及び生徒に身に付けて欲しい力として定めた。

■学校経営基本理念

- 法令遵守と説明責任の徹底—公教育としての自覚と責任
- 開かれた学校づくりの推進—各種評価と情報公開
- 『不易と流行』を見極めた学校運営—伝統の継承と新たな発想の導入
- 協働体制の確立—学年・分掌・教科の枠を超えた体制

■生徒に身に付けて欲しい力 ～優れたリーダー・真のエリート～

- 高い学力—知識を生きていくための知恵に変える力
- 豊かな人間性—自他を思いやる心
- 健全な心身—挫折回復力の育成

- 豊かなコミュニケーション能力の育成
- 高度なプレゼンテーション能力の育成

3 学校概要（全日制）

（1）職員構成

校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭
1	1	1	54	2
実習助手	事務長	事務職員	公務補他	合計
2	1	5	3	70

（3）本校勤務年数（教諭・養教・実助）

年数	1～5	～10	～15	～20	21～
人数	20	21	13	3	1

平均勤務年数7.5年

（2）年齢構成（教諭・養教・実助）

年齢	20代	30代	40代	50代
人数		1	23	34

平均年齢50.1歳

（4）生徒人数（5月1日現在）

学年	1年	2年	3年	計
男子	168	148	148	464
女子	152	174	169	495
計	320	322	317	959

（5）部活動加入率

○文化系446名 46.5% ○体育系427名 44.5% 実数 88.4%

【全国大会出場】

- ・合唱部（全日本合唱コンクール金賞B部門道内初）・吹奏楽部（日本管楽合奏コンテスト優秀賞）・ワンダーフォーゲル部（第5位3年連続出場）・文芸部（最優秀賞・文科大臣賞、2年連続）・物理化学部（奨励賞、科学技術政策大臣賞）・放送局（入賞）
- ・囲碁将棋部（囲碁新人戦進出）・レスリング部（個人進出）

（6）入学者選抜状況（合格者）

	国語	数学	社会	理科	英語	合計
最高	56	60	59	60	60	278
最低	27	23	38	45	33	214
平均	40.8	47.6	49.7	55.2	49.3	242.6

（学校裁量問題使用）

（7）進路状況（ ）内は過年度卒の内数

	H20.3	H21.3	H22.3
国公立大	273(117)	296(103)	242(88)
私大他	317(276)	221(194)	207(146)
	H23.3	H24.3	H25.3
国公立大	298(119)	238(80)	245(100)
私大他	235(181)	159(86)	221(160)

（8）北大合格者数

	H20.3	H21.3	H22.3	H23.3	H24.3	H25.3
現役	90	102	86	97	92	80
過年度	73	53	43	53	35	43
計	163	155	129	150	127	123

（9）東大・京大・医学部合格者数

	H20.3	H21.3	H22.3	H23.3	H24.3	H25.3
東大	9(4)	10(2)	7(3)	7(4)	8(1)	5(2)
京大	2(2)	2(0)	5(0)	5(2)	2(1)	3(1)
北大医	10(6)	14(6)	7(3)	9(5)	5(1)	4(3)
札医大	7(4)	9(5)	7(5)	4(1)	10(4)	9(7)
旭医大	5(2)	10(8)	12(8)	13(8)	7(3)	5(3)

進学先は地元の北大への進学が最多であり、長年にわたって北大合格者数では全国でトップを維持しており、東大、京大、一橋大などの難関大学や医学部に進学する生徒が多く、2011年（平成23年）入試では、全国の難関国立10大学*に現役、過年度合わせて197名が合格し全国第2位の進学実績を納めた。（サンデー毎日2011.5.1）

そして、2012年（平成24年）入試では、卒業生321名に対して109名が難関国立10大学へ

現役で進学しており、進学率34.0%は全国で第10位、公立高校ではトップの実績であった。
(プレジデントファミリー2012.10)

本校は進学校であるが決して受験だけを意識した指導は行っておらず全人教育を行っている。部活動では毎年全国大会まで出場し顕著な成績を納めたり、多くの学校行事には積極的に取り組み、特に、学校祭での「行灯」の出来映えは素晴らしく、地域住民も楽しみにしている伝統行事として先輩から引き継がれ、先輩と後輩の絆の強い学校である。

難関国立10大学—一般的に、東大・京大・北大・東北大・名古屋大・大阪大・九州大・東工大・一橋大・神戸大のこと。

4 計画的・継続的な進路指導

1学年では、大学の情報を調べる手段を学ぶために「AGE16」の時間に大学調べを行い「優秀レポート集」に纏めて進路学習に役立てているほか、冬季休業中に職場訪問を行うなどして将来の具体的な進路を考えさせている。2学年では、実際に大学を訪問して学部・学科への理解を深め進路の決定に役立てている。3学年では、一層詳しく学部・学科について調べ、本人の弱点に対応して放課後の講習に力を入れている。

本校に入学したからといって目指す大学に誰でも入れるわけではなく、日々の学習を通して知的レベルを大いに高めるとともに、心も体も鍛えながら本校の合い言葉になっている「集中と切り換え」を上手に行いながら将来の目標の達成に努めている。また、教職員はいつでも生徒からの質問に対して懇切丁寧に指導し、進路希望を達成するための援助を行っており「最良の参考書は職員室にある」と自負できる環境が整っている。

1年生『理想とする生き方を探究する』

■LHRやHR担任を通しての指導

- ①自分の興味・関心について考える
- ②将来に対する夢や希望を具体的に書く
- ③希望する大学、学部などを具体的に調べる
- ④大学入試に関する諸情報を調べる
- ⑤HR担任と生徒、保護者との懇談を通して進路相談を行う

■進路指導部を通しての指導

- ①実力把握のための全員受験の模試（3回）
- ②夏季・冬季休業中の6日間講習（英数国）
- ③土曜講習（年間15回）
- ④進路情報を収集するための学習
- ⑤職場訪問と職業研究
- ⑥学年末休業中の東京地区の大学訪問（東大・東工大・一橋大）

2年生『自分の理想とする生き方を実現するための大学。学部・学科を選ぶ』

■LHRやHR担任を通しての指導

- ①大学入試のシステム、学部・学科について踏み込んだ調査を行う
- ②着実な学習を継続し、基礎力の充実を図る
- ③苦手教科・科目の克服に努める
- ④HR担任と生徒、保護者との懇談を通して進路相談を行う

■進路指導部を通しての指導

- ①実力把握のための全員受験の模試（4回）
- ②夏季・冬季休業中の6日間講習（英数国）
- ③土曜講習（年間15回）
- ④学年末休業中の6日間講習
- ⑤志望学部別オリエンテーション
- ⑥進路集会（3回）
- ⑦進路講演会
- ⑧学年末休業中の東京地区の大学訪問（東大・東工大・一橋大）

3年生『自分が選んだ進路希望の実現に向けて努力する』

■LHRやHR担任を通しての指導

- ①進路相談を通して受験する大学、学部・学科を選ぶ
- ②センター試験、二次試験を目指して努力を続ける

■進路指導部を通しての指導

- ①オリジナルの校内模擬試験（3回）二次試験対策の貴重なデータとなる

- ②志望校に合わせた任意の模擬試験(14回)
- ③夏季・冬季休業中の6日間講習(全教科) ④土曜講習(年間15回)
- ⑤学期中の各6日間の放課後講習(全教科・小論文)
- ⑥各種受験情報の伝達と分析、解説 ⑦進路相談室での進路相談

5 高大連携事業を軸としたキャリア教育(発展的学習)

キャリア教育は、中央教育審議会答申等でその推進が求められ、平成20年7月に閣議決定された「教育振興基本計画」においてキャリア教育の推進が明示されたことを受け、平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領でその推進が明文化された。

全員が大学進学を希望している本校では、大学で何を学びそれを将来どう生かすかを考えさせるために高大連携事業や本校の先輩が講師を務める「彩風塾」などを中心としてキャリア教育を充実させている。

こうした本校の取組は「道新受験情報2013高校入試直前対策特集」の中で「札幌北の人氣は相変わらずであり、進学実績のみならず、キャリア教育の充実が上位生徒の注目を集めており、2013年度の倍率はさらに上昇する可能性もある」と書かれていて、実際、当初倍率は1.4倍にも達し、ここ3年間は高倍率で推移している。

(1) 彩風塾

本校OBによる講演会であり、卒業して30年目に当たる先輩を講師に迎えて毎年3回実施する。なお、卒業30年目の先輩はその年の本校同窓会の幹事にもなっている。

■平成22年度(31期生)

- ①講師：旭川医大 蒔田芳男、内容：医学部を斬る～学生が医師に変わる時～チュートリアル教育
- ②講師：名古屋地裁判事 田邊三保子、内容：裁判官、その実際と実態
- ③講師：NTTドコモ無線アクセス開発部長 梅田成視、内容：ケータイの現在とこれから

■平成23年度(32期生)

- ①講師：さっぽろ法律事務所弁護士 大賀浩一、テイクアクリックホットステーション院長 長谷川直美
内容：医師と弁護士のコラボレーション
- ②講師：北大大学院情報科学研究科教授 北裕幸、青山学院大学院国際マネジメント研究科教授 中里宗敬、内容：大学の先生という職業と魅力
- ③講師：(株)高組代表取締役社長 高喜久雄、(株)プロテラス代表取締役社長 岩切敏晃
内容：企業経営者の世界へ

■平成24年度(33期生)

①「ものづくりって面白い」

講師：鉄道総合技術研究所浮上式鉄道技術研究部長 岩松勝

内容：超伝導リニアモーターカーの開発

講師：アミノアップ化学代表取締役社長 藤井創

内容：研究者による国際市場に向けた製品づくり

講師：フジタ札幌支店長 広川雅人、内容：地図に残る仕事、かたちに残る仕事

②「マスコミ業界で働く！たてまえと真実」

講師：HBC北海道放送アナウンサー・気象予報士 近藤肇

H T B 北海道テレビ放送国際メディア事業部チーフマネージャー 沼田博光

③「医師になるってどんなこと？」

講師：札幌道都病院形成外科部長 江副京理、札幌皮膚科クリニック医師 横関真由美

(2) 高校生メディカル講座

この事業は道教委が地域医療に貢献する医師を目指す高校生を対象として、全道の地方の中心校9校を「医進類型指定校」としたものである。札幌市内の東西南北の4校は指定

校ではないが医学部に大勢進学している学校であることからこの講座を輪番で担当し、周辺の高校生も参加している。

平成22年度と23年度は本校が会場校になり、本校先輩の医師による講座が開かれ、医学部在籍の学生も交えての対話や様々な体験学習を行い、医学の最前線を理解する上で有効な講座である。

■平成22年度

講師：北大大学院医学研究科病理学教授 田中伸哉(本校OB)

同腫瘍病理学分野博士課程 高橋健太

内容：学生生活から医師への道のり、癌治療の最前線、模擬実習—人体臓器標本に触れる

■平成23年度

講師：北大大学院医学研究科病理学教授 田中伸哉(本校OB)

同腫瘍病理学分野博士課程 高橋健太、北大医学部学生2名

内容：目指せ医学部、模擬実習—人体臓器標本に触れる、ガン細胞のスケッチ

学生との対話—合格の道のりから学生生活、将来へ

■平成24年度(会場校：札幌南)

講師：北大大学院医学研究科准教授 井上猛、内容：医療を目指す高校生に向けて

講師：北大大学院医学研究科助教 橋本直樹、内容：脳の科学と心の医学

(3) 札幌医科大学体験講座

毎年の冬季休業中に札幌医科大学に出向き、講義を聴き模擬実験を行うなどして医学に対する理解を深めている。この事業は本校生のみが対象で、(2)の高校生メディカル講座を受講した生徒の多くが参加している。

■平成22～23年度

講師：札幌医科大学教授 當瀬規嗣、内容：ラットの心臓解剖、講義、模擬実験、施設見学

■平成24年度

講師：札幌医科大学教授 一宮慎吾、内容：病理学について

講師：医学部長 黒木由夫、内容：北海道医療卒について

講師：札幌医科大学教授 傳野隆一、内容：外科学について、外科手法実習

(4) 北海道大学高大連携授業聴講型公開講座

毎年、9月から2月にかけて本校の1年生が北大生と同じ授業を選択し週1回の割合で15回程受講している。この間、北大附属図書館を自由に活用したり、受講に当たっては申込手続きを経てオリエンテーションを実施してから開始している。この講座は北大高等教育推進機構の山崎みどり教授にお世話いただき、平成24年度は15名が参加した。

将来、大学を目指す生徒にとって、進学意識の高揚が図られ目的意識が明確になるほか、知的なチャレンジに臨みプレゼンテーション能力が育成され、更に難関大学に挑戦する生徒の増加にもつながっている。

(5) 進学講演会

東大や京大において第一線で活躍している研究者に来ていただき、1, 2年生対象に講演会を実施している。講演会の後は生徒と懇談する機会を設定し積極的に質問したり、真剣に話し合いに参加している。

■平成22年度

講師：東大大学院総合文化研究科生命環境科学系教授 石浦章一

内容：アルツハイマー病の研究者として有名名であり多くの著書を出版している。人の気質や依存に関わる神経伝達の研究や分子機構などについて身近な事例を交えながらの講演は大変有意義であった。

■平成23年度

講師：東大総合文化研究科地域文化研究専攻ラテンアメリカ文化准教授 石橋純
内容：東大教養学部でラテン音楽を研究し様々な歌やリズムを披露し生徒にも体験させた。
東大の学生数名も同行して演奏したが、普段知ることのない教養学部の一面を理解することができた。

■平成24年度

講師：東大大学院理学系研究科准教授 有田正規
内容：「理学を目指そう 理学としての生物情報科学」のテーマで新しい学問の魅力や理学の魅力について講演した。1年生は3回の事前学習と講演後のレポート作成を行い効果的な講演会になった。自然を探究する方法や社会との関連性を学び、生徒は学問のつながりが意識でき視野が広がった。

(6) 物理・数学ゼミナール

北大から講師を招いたり北大の研究室で専門的な内容を聴講し、物理系や数学系を希望する生徒の進路指導に役立っている。

■物理ゼミナール

講師：北大理学部物理研究科准教授 徂徠和夫
内容：電波天文学 見えない宇宙を見る宇宙進化のなぞ、酸化物超伝導体に係る実験・観察、電波顕微鏡の操作

■数学ゼミナール

講師：北大創成研究機構特任教授 瀧川一学 内容：データ大氾濫社会を生き抜く技術
講師：北大大学院理学院准教授 本多尚史 内容：逆関数とは何か
講師：北大大学院理学院教授 中村郁 内容：高校で学ばない情報技術、追体験、オイラーの発見

(7) S P P化学

昨年度まで実施していた事業で、実施前に事前学習を行ってから北大の実験室で専門的な実験を行う。上限は15名である。終了後は各自が発表会を行い実験成果を検証している。

講師：北大理学院教授 喜多村昇

第1回 金属イオンの系統分析 第2回 キレート滴定、水の分析

第3回 クロマトグラフィー 第4回 鈴木・宮浦カップリング

第5回 発表会、実験の纏め

(8) 北大「国民との科学・技術対話」推進事業

この事業は北大からの要請を受けて、北海道新聞社がコーディネートし各高校に話を持ちかけて実施している。本年度は4回実施し他校の生徒も参加していた。

■第1回(11/29)

講師：北大大学院農学研究院助教 高野順平

内容：やせた土地でも育つ作物をつくる、会場：北大農学部

■第2回(12/1)

講師：北大遺伝子病制御研究所教授、藤田恭之

内容：正常細胞がガン細胞を駆逐する、会場：北大医学部

■第3回(12/26)

講師：北大大学院工学研究院教授 船木尚行

内容：トイレで貧しさから抜け出す アフリカ・ブルキナファソでの挑戦

会場：本校物理実験室

■第4回(12/27)

講師：国大遺伝子病制御研究所教授 清野研一郎

内容：臓器移植とガン、免疫、再生医療、会場：本校生物実験室

(9) 東京大学 高校生のための金曜特別講座(ライブ配信)

毎回1時間半にわたり、東大からネット配信されたライブ授業を受講でき、双方向の通信であり、講師に質問したり対話が可能になっている。期間は10月から2月にかけて15回の配信があり、興味のある分野を自由に視聴でき、進路選択と学問を学ぶ楽しさを知る機会になっている。

第1回 未来材料：チタン・レアメタル(岡部徹)、第2回 デジタル・ネイティブの現在(木村忠正)、第3回 視覚で復号する暗号画像(山口泰)、第4回 包接化合物の世界(錦織紳一)、第5回 真空から生まれる科学と技術(岡本拓司)、第6回 $1+1=0$ の世界の代数・幾何・応用(松本眞)、第7回 パズルと相転移(福島孝治)、第8回 材料の強度と物性の原子(梅野宜崇)、第9回 「香港」という地域を観る(谷垣真理子)、第10回 確率・統計モデル入門(倉田博史)、第11回 ミクロの目で見る筋肉の世界(長田洋輔)、第12回 イラストレーションのパワー(寺田寅彦)、第13回 モンゴルの紹介(駐日モンゴル国大使館)

(10) 図書館講演会

毎年、文化系の内容に焦点を当てた講演会を実施している。出版物として完成するまでの努力や苦勞、文章表現の仕方読み方など普段聴くことのできない講演会になっている。

■平成22年度

講師：作家 池澤 夏樹、内容：世界全集を編む

■平成23年度

講師：児童文学者 升井 純子(本校OB)、内容：泣きたいほど好きなものありますか

■平成24年度

講師：フリーライター 渡辺 一史、内容：書くって何だろう

(11) プロフェッショナル講座

1年生を対象にした講座で、様々な職業の方に来ていただき、自分が希望する講座を受講し進路に役立てる。()内は受講者数

■医師になるということ(47)、今医院院長 今 眞人

■ヒトと科学、人間と医療(50)、薬剤師 大久保 太郎

■見ることと聴くこと(25)、建築家・音楽家 畠中 秀幸(本校OB)

■システムエンジニアってどんな仕事(21)、システムエンジニア 勝股 均

■弁護士として生きる(36)、弁護士 芝池 俊輝

■夢をつなげる(21)、ジャーナリスト 岡崎 敏

■心理学に関する専門職について(49)、臨床心理士 川崎 直樹

■理学や工学未来の社会に貢献するために(69)、研究者・室工大准教授 澤口 直哉

(12) 学部別集会

2年生を対象にした進路学習であり、文学、法学、経済学、教育学、医学、保健医療学、理学、工学、農学、薬学の10系統に分かれ、本校卒業生で、現在大学や大学院で学んでいる学生を講師として招いた。

集会後のアンケートでは、94.4%が「大変参考になった」「参考になった」と答え、自由記述では「実際の大学のイメージが沸いた」「希望している学部に入りたい意志が一層強まった」「勉強に対するモチベーションが上がった」など充実した時間であったことが判明した。

■「本から学ぶ」を超えて「本を変える」へ、北大大学院文学研究科修士1年

■膨大な法律を自在に操り、議論する、北大法学部4年

■世の中の全ての現象に「何故？」の視点を、北大経済学部4年

- 教育学は「教員養成学」ではない、道教育大札幌校 4年
- 人の命に関わる者の責任、北大医学部 4年
- 忙しいがやりがいがある、北大医学部看護学専攻 2年
- 論文・学会での発表 理学部の醍醐味、北大大学院生命科学院修士 1年
- 研究分野の幅広さ 学生数は桁違い、北大大学院情報科学研究科修士 1年
- これからは食の時代、北大大学院農学院修士 1年
- 卒業後の職業も見据えた進路決定を、北大大学院薬学研究院修士 1年

(13) 東京方面の大学訪問

学年末休業中に1・2年生を対象に、東大、一橋大、東工大の訪問を行っている。大学では本校の先輩教授方から説明を受け施設見学を行い、本校を卒業した学生との懇談を行い進路意識の高揚に役立っている。日程は1泊2日で実施し、例年50名前後が参加している。

(14) 道外難関大学志望者説明会

2年生を対象として数校の大学から講師を招き説明会を実施している。例年、約60名が参加している。

(15) AGE16

1年生を対象に大学調べを行い優れたものは「優秀レポート」に掲載し進路学習に役立っている。調査する大学を決めてから入試科目、学部・学科、講義やゼミの内容を調査し、自分の興味・関心のある分野とその理由などについてレポートとして纏めている。

(16) 職場訪問

1年生が行うインターンシップであり、毎年冬季休業中に実施しており、平成23年度は12ヶ所の職場に77名が参加した。

6 キャリア教育の成果

- ・生徒の知的好奇心を刺激し、勉強への意欲をさらに高めることができた。
- ・専門的な学習を経験したり、大学での体験学習を行うことで進路の目的が明確になった。
- ・進学希望の学部・学科の詳しい内容が理解でき、自己の適性の把握に役立った。
- ・大学や社会の第一線で活躍している先輩方との絆が強まった。
- ・物事を多角的、複眼的に見る目を養うことにつながった。
- ・文系、理系にかかわらず、幅広い教養を身に付けることができた。

7 今後の展望

本校を卒業した生徒は、社会に出てから優れたリーダーとして活躍し真のエリートとして万人から認められる人材が揃っており、110年の歴史と伝統を後輩たちはしっかりと受け継ぎ、新たな歴史と伝統をつくることが期待されている。

そのためには、学習を中心とした日々の学校生活の中で、全体を見渡すことができるバランス力、集中力、正確性そして協調性などが今世界が求めている学力であり、そういう力を身に付けることで「人間力」が備わってくる。

そして、真のリーダーには、周囲を魅了するプレゼンテーション力やスピーチ力が必要であり、ミッション（使命）、ビジョン（展望）、パッション（情熱）を持っている人間こそ我が国に必要な人材である。

本校では、キャリア教育を通して人格形成に努め、豊かな人間性を養っており、こうした教育内容を多くの中学生に理解してもらうため広報活動にも力を入れ始めた。

これまでも種々の広報活動を行ってきたが、一昨年「広報活動等検討委員会」を設立し組織的、計画的そして意図的に活動を行っている。

具体的には、学校見学会や中学校説明会、HPによる情報提供などは他の学校でも行っているが、本校では、新たに「中学校訪問」と「塾訪問」を加え、特に、中学校訪問では当該中学校を卒業した本校生徒が直接出向き、学校生活全般を説明したり中学生との対話を通して本校の様子を正しく理解してもらうことに努めている。

平成23年度は5校の中学校から説明会の要請があり好評だったので、今後、早い時期からの実施を検討し充実させたい。

また、塾訪問は、中学生や塾講師に対して進路選択の資料提供を行うことを目的に、石狩一学区化や学力検査の学校裁量問題などについての理解を深めていただくとともに、本校の教育内容を広く紹介している。本校は伝統校・進学校として定着しているが、少子化が進んでいる中でいつまでも生徒が集まる保障はない。

これからの時代はマネジメントをしっかりと行い、時には大きな改革が必要な場合もあるが、身近な教育改革を進めることを忘れてはならない。

(前校長：黒田 信彦)

札幌北高校のキャリア教育

物理・数学ゼミナール
■物理ゼミナール 講師：北大理学部物理研究科准教授 祖徕和夫 内容：電波天文学 見えない宇宙を見る宇宙進化のぞき 酸化物超伝導体に係る実験・観察 電波顕微鏡の操作
■数学ゼミナール 講師：北大創成研究機構特任教授 瀧川一学 内容：データ大氾濫社会を生き抜く技術 講師：北大大学院理学准教授 本多尚史 内容：逆関数とは何か 講師：北大大学院理学教授 中村郁 内容：高校で学ばない情報技術 追体験、オライバーの発見

SPP化学
講師：北大理学院教授 喜多村昇 第1回 金属イオンの系統分析 第2回 キレート滴定、水の分析 第3回 クロマトグラフィー 第4回 鈴木・宮浦カップリング 第5回 発表会、実験の締め

北大「国民との科学・技術対話」推進事業
■第1回(11/29) 講師：北大大学院農学研究院助教 高野順平 内容：やせた土地でも育つ作物をつくる 会場：北大農学部
■第2回(12/1) 講師：北大遺伝子病制御研究所教授 藤田恭之 内容：正常細胞がガン細胞を駆逐する 会場：北大医学部
■第3回(12/26) 講師：北大大学院工学研究院教授 船木尚行 内容：トイで貧しさから抜け出す アフリカ・ブルキナファソ での挑戦 会場：本校物理実験室
■第4回(12/27) 講師：北大遺伝子病制御研究所教授 清野研一郎 内容：臓器移植とガン、免疫、再生医療 会場：本校生物実験室

学部別集會(2年)
■「本から学ぶ」を超えて「本を変える」へ 北大大学院文学研究科修士1年
■膨大な法律を自在に操り、議論する 北大法学部4年
■世の中の全ての現象に「何故?」の視点 北大経済学部4年
■教育学は「教員養成学」ではない 道教育大札幌校4年
■人の命に関わる者の責任 北大医学部4年
■忙しいがやりがいがある 北大医学部看護学専攻2年
■論文・学会での発表 理学部の醍醐味 北大大学院生命科学院修士1年
■研究分野の幅広さ 学生数は桁違い 北大大学院情報科学研究科修士1年
■これからは食の時代 北大大学院農学院修士1年
■卒業後の職業も見据えた進路決定 北大大学院薬学研究院修士1年

北海道大学高大連携授業聴講型公開講座(1年)
毎年、9月から2月にかけて本校の1年生が北大生と同じ授業を選択し週1回の割合で15回受講している。 この間、北大附属図書館を自由に活用したり、受講に当たっては申込手続きを経てオリエンテーションを実施してから開始している。 この講座は北大高等教育推進機構の山崎みどり教授にお世話いただき、平成24年度は15名が参加した。

高校生メディカル講座
■平成22年度 講師：北大大学院医学研究科病理学教授 田中伸哉(本校OB) 同種癌病理学分野博士課程 高橋健太 内容：学生生活から医師への道のり 癌治療の最前線 模擬実習ー人体臓器標本に触れる
■平成23年度 講師：北大大学院医学研究科病理学教授 田中伸哉(本校OB) 同種癌病理学分野博士課程 高橋健太 北大医学部学生2名 内容：目指せ医学部 模擬実習ー人体臓器標本に触れる ガン細胞のスケッチ 学生との対話ー合格の道から学生生活、将来へ
■平成24年度(会場校：札幌南) 講師：北大大学院医学研究科准教授 井上猛 内容：医療を目指す高校生に向けて 講師：北大大学院医学研究科助教 橋本直樹 内容：脳の科学と心の医学

札幌医科大学体験講座
■平成22~23年度 講師：札幌大教授 當瀬規嗣 内容：ラットの心臓解剖 講義、模擬実験、施設見学
■平成24年度 講師：札幌大教授 一宮慎吾 内容：病理学について 講師：医学部長 黒木由夫 内容：北海道医療科について 講師：札幌大教授 傳野隆一 内容：外科学について、外科手法実習

進学講演会(1・2年)
■平成22年度 講師：東大大学院総合文化研究科生命環境科学系教授 石浦章一 内容：アルツハイマー病の研究者として有名であり多くの著書を出版。 人の気質や依存に関わる神経伝達の研究や分子機構などについて 身近な事例を交えながらの講演は大変有意義であった。
■平成23年度 講師：東大総合文化研究科地域文化研究専攻 ラテンアメリカ文化准教授 石橋純 内容：東大教養学部でラテン音楽を研究様々な歌リズムを披露し 生徒にも体験させた。 東大の学生数名も同行して演奏したが、普段知ることのない 教養学部的一面を理解することができた。
■平成24年度 講師：東大大学院理学系研究科准教授 有田正規 内容：「理学を目指そう 理学としての生物情報科学」のテーマで新しい 学問の魅力や理学の魅力について講演した。 1年生は3回の事前学習と講演後のレポート作成を行い効果的な 講演会になった。 自然を探究する方法や社会との関連性を学び、生徒は学問の つながりが意識でき視野が広がった。

彩風塾(全学年)
■平成22年度(31期生) ①講師：旭川医大 藤田芳男 内容：医学部を斬る〜学生が医師になる時 〜チュートリアル教育地 ②講師：名古屋地裁判事 田邊三保子 内容：裁判官、その実際と実態 ③講師：N T Tドコモ無線アクセス開発部長 梅田成規 内容：ケータイの現在とこれから
■平成23年度(32期生) ①講師：さっぽろ法律事務所弁護士 大賀浩一 テイクアクリックホップとステーション院長 長谷川直美 内容：医師と弁護士のコラボレーション ②講師：北大大学院情報科学研究科教授 北裕幸 青山学院大学院国際マネジメント研究科教授 中里宗敬 内容：大学の先生という職業と魅力 ③講師：(株)高総代表取締役社長 高喜久雄 (株)フロテラス代表取締役社長 岩切敬寛 内容：企業経営者の世界へ
■平成24年度(33期生) ①「ものづくりって面白い」 講師：鉄道総合技術研究所浮上式鉄道技術研究部長 岩松勝 内容：超伝導リアモーターカーの開発 講師：アミノアップ化学代表取締役社長 藤井創 内容：研究者による国際市場に向けた製品づくり 講師：フジタ札幌支店長 広川雅人 内容：地固に勝る仕事、かたみに勝る仕事 ②「マスコミ業界で働く! たてまえと真実」 講師：H B C北海道放送アウンサー・気象予報士 近藤肇 H T B北海道テレビ放送国際メディア事業部チーフマネージャー 沼田博光 ③「医師になるってどんなこと?」 講師：札幌産科形成外科部長 江副京理 札幌皮膚科クリニック医師 横関貴由美

東京大学 高校生のための金曜特別講座(ライブ配信)
第1回 未来材料：チタン・レアメタル(岡部徹)
第2回 デジタル・ネイ：
第3回 視覚で復習する暗号画像(山口泰)
第4回 包接化合物の世界(錦織紳一)
第5回 真空から生まれる科学と技術(岡本拓真)
第6回 1+1=0の世界の代数・幾何・応用(松本真)
第7回 パズルと相転移(福島孝治)
第8回 材料の強度と物性の原子(梅野宣崇)
第9回 「香港」という地域を観る(谷垣真理子)
第10回 確率・統計モデル入門(倉田博史)
第11回 ミクロの目で見える筋肉の世界(長田洋輔)
第12回 イラストレーションのバワー(寺田貴彦)
第13回 モンゴルの紹介(駐日モンゴル国大使館)

図書館講演会
■平成22年度 講師：作家 池澤 夏樹 内容：世界全集を編む
■平成23年度 講師：児童文学者 升井 純子(本校OB) 内容：泣きたいほど好きなものもありますか
■平成24年度 講師：フリーライター 渡辺 一史 内容：書くって何だろう

プロフェッショナル講座(1年)
■医師になるということ(47) 今医院院長 今 真人
■ヒトと科学、人間と医療(50) 薬剤師 大久保 太郎
■見ることと聴くこと(25) 建築家・音楽家 畠中 秀幸
■システムエンジニアってどんな仕事(21) システムエンジニア 勝股 均
■弁護士として生きる(36) 弁護士 芝池 俊輝
■夢をつなげる(21) ジャーナリスト 岡崎 敏
■心理学に関した専門職について(49) 臨床心理士 川崎 直樹
■理学や工学未来の社会に貢献するために(69) 研究者・室工大准教授 澤口 直哉

東京方面の大学訪問(1・2年)
学年末休業中に1・2年生を対象に、東大、一橋大、東工大の訪問を行っている。

道外難関大学志望者説明会(2年)
2年生を対象として数校の大学から講師を招き説明会を実施している。例年、約60名が参加している。

AGE16(1年)
1年生を対象に大学調べを行い優れたものは「優秀レポート」に掲載し進路学習に役立てている。

職場訪問(1年)
1年生が行うインターンシップであり、毎年冬季休業中に実施しており、平成23年度は12ヶ所の職場に77名が参加した。